

第五中学校区に設置する貝塚市立義務教育学校の

開校準備に必要な事項について

(最終答申)

令和6年3月

貝塚市立義務教育学校開校準備委員会

目次

1. はじめに	1
2. 中間答申	2
(1) 校名案の選定方法について	2
(2) 校名案募集について	2
(3) 校名案募集結果について	2
(4) 校名案アンケートの実施について	3
(5) 校名案アンケート結果について	3
(6) 校名案の最終選定について	3
3. 第2回中間答申	4
(1) 制服、体操服及び給食	4
① 制服	4
② 体操服	4
③ 給食	4
(2) 校歌、校章	4
① 校歌	5
② 校章	5
(3) 答申	5
4. おわりに	6

1. はじめに

貝塚市立義務教育学校開校準備委員会（以下「開校準備委員会」という。）は、令和4年7月25日、貝塚市教育委員会から第五中学校区に設置する貝塚市立義務教育学校の開校準備に必要な次の事項について諮問を受けました。

- ・義務教育学校の名称、校章、校歌に関する事項
- ・その他義務教育学校の開校準備に関する事項

開校準備委員会では、子どもたちや保護者、地域住民の意見を新たな学校の様々な事項に反映させるため、アイデア募集やアンケートを実施し、令和4年10月には、学校名を「二色学園」とする「中間答申」を教育委員会へ提出しました。

また、その後、二色小学校・第五中学校の児童・生徒、その世帯を対象に、制服、体操服及び給食に関するアンケートを実施するとともに、校歌及び校章については、市内在住・在勤者を対象にアイデア募集を行ったのち、校章については応募作品の中から数点を選出し、二色小学校・第五中学校の児童・生徒、その世帯を対象にアンケートを実施しました。令和5年3月、その経過及び結果を「第2回中間答申」として教育委員会へ提出しました。

本書は、上記2回の中間答申を経て、今後の二色学園のあるべき姿について、開校準備委員会が最終答申として取りまとめたものです。

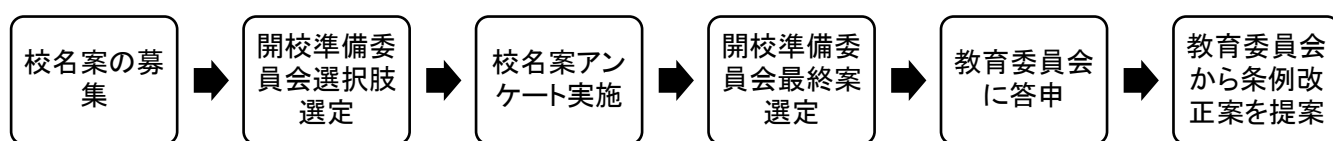
2. 中間答申

(1) 校名案の選定方法について

開校準備委員会では、校名案を選定するにあたり、二色小学校・第五中学校の児童・生徒、未就学児及びその保護者や地域住民の意見を反映させるため、校名案を公募することとし、応募された校名案の中から何点かピックアップした後、アンケートを実施することとしました。

アンケート結果に基づき、開校準備委員会の最終案として選定した校名案を教育委員会に答申、教育委員会において「貝塚市学校設置条例」に新たな義務教育学校名を記載した改正案を議会に上程し、議決されると正式に学校名が決定します。

[校名案選定の流れ]



(2) 校名案募集について

義務教育学校の校名案を以下の方法で募集しました。

[募集期間]

令和4年9月2日から令和4年9月22日まで

[対象]

- ・二色小学校、第五中学校の児童生徒及び教職員
- ・第五中学校区にお住まいの方

[応募方法]

- ・郵送、FAX または持参
- ・電子申請

(3) 校名案募集結果について

校名案を募集したところ、以下の結果となりました。校名案の種類は「別表1 校名案応募結果」に記載しています。

- ・応募総数：70件
- ・校名案の種類（重複する名称は1種類でカウント）：53種類

次に校名案アンケートを実施するにあたり、候補となる校名案の選定基準及び候補の数について開校準備委員会で協議した結果、以下の2点を選定基準とすることとし、小学校低学年も回答しやすいよう、候補の数を5つとしました。

[選定基準]

- ・親しみやすく、第五中学校区にふさわしい名前であること。
- ・将来にわたり、長く使い続けられる名前であること。

(4) 校名案アンケートの実施について

開校準備委員会で選択した5点の校名案によるアンケートを、以下の方法で実施しました。

[実施期間]

令和4年10月4日から令和4年10月21日まで

[対象]

- ・二色小学校、第五中学校の児童生徒及び教職員
- ・第五中学校区にお住まいの方

[回答方法]

- ・郵送、FAX または持参
- ・電子申請

[選択肢]

- ・にしきがくえん（二色学園 または にしき学園）
- ・二色義務教育学校
- ・にしきみらいがくえん（二色未来学園 または 二色みらい学園）
- ・なないろ学園
- ・二色あおなみ学園

(5) 校名案アンケート結果について

校名案アンケートは以下の結果となりました。

○有効回答数：453件

- ・ にしきがくえん 174票 うち 二色学園 152票
にしき学園 19票
(未選択 3票)
- ・ にしきみらいがくえん 111票 うち 二色みらい学園 55票
二色未来学園 54票
(未選択 2票)
- ・ 二色あおなみ学園 66票
- ・ なないろ学園 58票
- ・ 二色義務教育学校 44票

(6) 校名案の最終選定について

校名案アンケート結果をもとに審議した結果、最も票数の多かった「二色学園」を開校準備委員会の最終案として選定することとし、教育委員会へ答申します。

3. 第2回中間答申

(1) 制服、体操服及び給食

開校準備委員会では、二色学園の制服、体操服及び給食をどのようなものにするかについては、各世帯で子どもたちの意見を聞き、経済的な負担も考慮しながら話し合っていたいただき、出た結果を集約し選定したいと考えました。

そこでまず二色小学校・第五中学校の児童・生徒を対象にアンケートを実施し、その結果をお知らせしたうえで、二色小学校・第五中学校に通う児童・生徒及び二色小学校に入学予定の未就学児がいる世帯を対象に、アンケートを実施しました。

① 制服

制服については、前期、後期それぞれの課程において着用するか否かを聞き、着用すると回答した場合、さらに現行のデザインから変更するか否かを答えていただきました。

アンケートを集計した結果、制服は後期課程のみが現行デザインを着用するという回答が最も多くなりました。

② 体操服

体操服については、前期課程は現行の二色小学校の体操服、後期課程は現行の第五中学校の体操服をそのまま着用するか、前期課程と後期課程を同じ体操服にして、新しいデザインのものを着用するかを答えていただきました。

アンケートを集計した結果、前期課程は現行の二色小学校の体操服、後期課程は現行の第五中学校の体操服をそのまま着用するという回答が多くなりました。

また、その他として、前期課程の体操服から後期課程の体操服に切り替える時期は、6年生から7年生になるタイミングに限らず、前期課程の途中でも可能としてほしいとの意見があり、答申に取り入れることとしました。

③ 給食

給食については、前期、後期課程とも学校で調理した給食を食べるか、前期課程は学校で調理した給食、後期課程はデリバリー方式の給食を食べるかを答えていただきました。

アンケートを集計した結果、前期、後期課程とも学校で調理した給食を食べるという回答が多くなりました。

(2) 校歌、校章

開校準備委員会では、二色学園の校歌及び校章を選定するにあたり、まず広くアイデアを募集し、校歌については応募いただいたアイデアを元に有識者に制作を依頼し、校章については応募いただいたアイデアから数点ピックアップし、住民アンケートを実施して、元になるデザインを選定することとしました。

① 校歌

校歌の歌詞またはフレーズを、貝塚市在住の方、または貝塚市外在住で貝塚市にゆかりのある方を対象に募集した結果、95 件の応募がありました（別表参照）。

② 校章

校章のデザインを、校歌と同様、貝塚市在住の方、または貝塚市外在住で貝塚市にゆかりのある方を対象に募集した結果、74 件の応募がありました。

その中から、開校準備委員会で選択した6点のデザインより、第五中学校区の住民を対象にアンケートを実施した結果、下記のデザインを選んだ方が最も多くなりました。



【デザインの説明】

枠は海を、丸は太陽をイメージし、太陽に照らされた波のように輝き、勢いがある元気な子どもという思いをこめています。

(3) 答申

以上の結果を元に、開校準備委員会において協議した結果、以下のとおり意見がまとまりましたので、答申します。

- ・制服は、前期課程は着用しない、後期課程は現行デザインを着用する。
- ・体操服は、前期課程は現行の二色小学校の体操服、後期課程は現行の第五中学校の体操服をそのまま着用する。ただし、前期課程の体操服から後期課程の体操服に切り替える時期は、柔軟に運用することとする。
- ・給食は、前期、後期課程とも学校で調理した給食を提供する。
- ・校歌を制作する際には、別表の歌詞、フレーズを活用する。
- ・校章を制作する際には、上記のデザインを元にする。

4. おわりに

開校準備委員会では、教育委員会から諮問を受けた校名、校章、校歌及びその他義務教育学校の開校準備に関する事項について、慎重に審議を行ってきました。

審議にあたり、最も心掛けたことは「地域の方々の意見を聞く」ことで、すべての事項について児童・生徒をはじめ保護者や地域の方々にアイデア募集やアンケートを通してご意見をお聞きし、その結果を答申に反映しました。

アイデア募集やアンケートには、平成元年の二色の浜パークタウン街びらきから、地域の方々とともに歩んできた二色小学校及び第五中学校が、今般、義務教育学校「貝塚市立二色学園」として新しくスタートを切るにあたり、その発展を願う気持ちがあふれていました。

開校を間近に控え、開校準備委員会としての活動は本答申をもって目的を達しますが、二色学園が今後も地域の方々から愛され、保護者はもとより地域の方々との協働による教育活動を実践し、多くの方々の協力を得ながら、次世代を担う児童生徒を育成する学校となることを切に願い、結びとします。